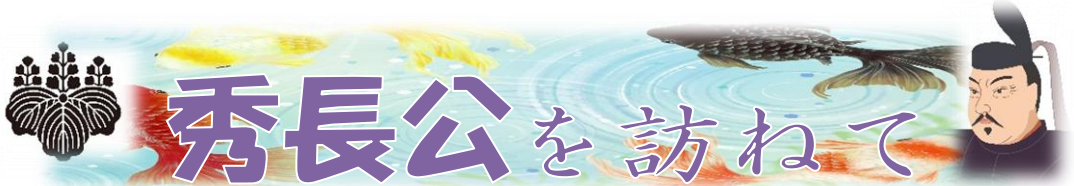




No.173 2026. 3

発行 真言宗豊山派
北田山寶泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com



今年のNHK大河ドラマ「豊田兄弟!」はご覧になられているでしょうか。主人公の豊臣秀長は真言宗豊山派の総本山、奈良の長谷寺を復興させ、豊山派の派祖、専誉(せんよ)僧正を長谷寺に招いた宗派創立に関わる最重要人物の一人です。

秀吉の実弟である秀長は、秀吉が天下を治めた後、奈良周辺を任される110万石の大名となり奈良県大和郡山市の郡山城を拠点としました。先日、その大和郡山を訪ねてきましたのでご報告いたします。

京都駅から近鉄線に乗って約40分、「近鉄郡山駅」を降りると、のどかな城下町が広がります。金魚の産地としても知られる大和郡山の町はゆったりとした空気の流れる落ち着いた雰囲気、道行く人々も何だか穏やかな印象。

まずは秀長の菩提寺である春岳院へ。小さな境内に建つ小ぶりの本堂にお邪魔すると学芸員の男性が丁寧に案内をしてくれます。現在、秀長のお骨は京都の大徳寺に埋葬されていますが、春岳院は秀長の位牌を守っていることから菩提寺と認定されているそうです。

春岳院のお参りの後は郡山城跡(郡山城跡公園)を散策です。残念ながらお城自体は当時の姿を失っているものの、石垣や天守閣跡に往時の趣を感じることができます。また、個人的に驚いたのが江戸中期以降、大和郡山の地を治めていたのは寶泉寺近郊の開拓を行った川越藩主の柳澤家であり、金魚を持ち込んだのも柳澤家だったこと。城跡には柳澤吉保を祀る立派な神社が建てられ、貴重な資料を管理展示する柳澤文庫なる資料館もあり、奈良と埼玉の意外な結びつきにグッと来たのでした。

大和郡山駅は京都駅から長谷寺駅の途中にありますので、ぜひ、旅行先の候補にさせていただければと思います。



郡山城展望台から街並みを望む

中道を考える

先の選挙では「中道」という言葉が話題になりましたね。もともと

「中道」は仏教のとても大切な教えの一つ。

ということで、今年最初の法話カフェ（本堂で行うみんなで仏教を入口に色々なことを語り合うお茶会）は「中道」をテーマにしました。

「中道」を『日本佛教語辞典』で引いてみると

① 両極端を離れることによって得られる中正な道

② 対立する二つの見解を離れた不偏中正な道

とあります。

つまり、中道とは、①極端な考えや行動をしりぞけ（例：子どもは甘やかし過ぎても厳しくし過ぎてもいけない）②相反する見方（例：魂は有るか無いか）のどちらも取らないことを指します。

さて、中道という生き方の実践に必要なのは、先入観に基づいた固定観念に縛られないこと。言い換えれば、常に柔軟でその場に応じた適切な考えや行動がとれることとなります（決して真ん中を取れば良いわけではありません）。

ここで法話カフェに参加のお一人が「それってすごく難しくて大変そう！」と発言されました。

そうなんです。人間の脳は、瞬間瞬間で膨大な処理を行わなければならない、細かな事柄にできるだけコストをかけないように進化してきたため、私たちには物事をできるだけシンプルに決めたる性質が備わってきたと言われていています。

中道的生き方はその逆を行く教えなので、すごくコストパフォーマンスが悪い（改めて仏教はホモサピエンスの持つ性質を超克するための教えだとわかります）。現代では、コスパ・タイパなどの言葉に表されるように、より効率が重視され、私たちはSNSの効果も相まって、強く明確で気持ちの良い（ように聞こえる）メッセージに動かされやすい傾向にあるように思えてなりません。

これはとても楽な生き方かもしれませんが、そのような思考回路に「待った！」をかけるのがお釈迦様の教えなのだとい回の法話カフェを通じて改めて共有することができました。

「中道」は難しいし、とても面倒くさいし、大変です。ただ、その営みを私たちは続けていかなければならない。それが本能を超えた人類にとって最良の道であると信じています。

葬儀事情見聞 上

人の生き死には大昔から日常の暮らしの大きな要素です。特に葬儀は家族の営みではありますがまた親戚や地域の暮らしにも大きく関わることです。そこでは親戚や隣組など、あるいは勤務先の会社組織などの大きな援助などがあり、共同、協同、共働、共助、互助などの精神がこめられて意味深いものがあります。人の最期はいわば社会性があると小僧(しょうそう)は考えています。

「村八分」という言葉があります。日常の交際のうち火事と葬儀は省くというものですからことの大きさがわかります。

ふり返りますと古くから葬儀は親戚や隣組がこぞって加わりそれを支えるのが普通で、しかもお互い様という認識も働いていたものです。労力はもちろん、経済的にもそうでした。お香典は葬儀後の生活の一助に資すものだとの説もあるぐらいです。そしてお寺も側面からの支援は惜しみません。

世の変化は当たり前のこととはいえ、特にコロナ禍をへて葬儀事情の変化は大きく、一部は社会問題化している事柄もあります。人口構成のゆがみによる多死化社会や失われた30年といわれる社会構造の変化も背景に存在するのではないのでしょうか。自己責任が声高にとなえられて、何事も個人や家族の判断や決定に委ねられて、世代を越えて伝えられてきた習慣や地域に共有されてきた共感、知恵などがうまく伝えられてこなかった面があります。そのことが葬儀の場面にも色濃く反映されている気がします。一方、「家族葬」などと便利な言葉も定着しつつあり、葬祭業者が事業経営として大きく入り込んでいることも見逃せません。葬儀は親戚や地域との連帯感や共感を得る機会でもあったと思います。本来の人の暮らしを見失ってしまいそうで、「金だけ、今だけ、自分だけ」ではあまりにもさみしい気がします。

こんな思っている小僧(しょうそう)は昨年暮れ朝日新聞の記事を発見しました。「令和のお葬式～増えるお金のトラブル」というものです。さらに今年に入ってNHK「クローズアップ現代」でも葬儀事情について報じられました。まさに社会問題に切り込むマスメディアの姿勢、今回はこの二つについてです。

今年も雑木林の作業に お手伝いいただけませんか！

4月2日(木)、午前9時からお昼まで。
こちらで昼食を用意しておきます。

7年目になりました。作業服、タオル、軍手など、あればノコギリ、ナタなどもお持ちください。お手伝い願える方はぜひお知らせください。

☎04-2943-2467

ここ数年地元の「梶原造園」様に人員と機材を無償で提供をいただいております。おかげさまで効率のいい作業が出来ていることもあわせてお知らせ致します。

護摩法要

日時：3月21日14時開始

会場：寶泉寺大師堂

煩惱を焼き払い、私たちの願いを仏様に届けるために行うのが護摩法要。皆様の願いが書かれた護摩木をお焚き上げしますので、ご希望の方は大師堂にてご記入ください。法要の開始直前まで受けつけています。もちろんご参列も大歓迎！



花まつり

日時：4月7日12時~16時 8日10時~15時

会場：寶泉寺 本堂

誕生仏をまつる花御堂



4月8日はお釈迦様のお誕生日で、お祝いの行事を花まつりと呼びます。

今年は平日ではありますが2日間にわたり本堂を開放し、堂内で腕輪念珠が作れるよう準備しています。どなたでもお気軽にお参り下さい。念珠はお一人につき一つまでは無料です。

編集後記

- 3/1 狛江市において声明コンサートに登壇。出演者最年長ですごく疲れた…。所作のミスもありそろそろコンサートは引退かなあなんて考えてしまう50歳。ご来場いただいた皆さんに心から御礼申し上げます。
- 世界の荒れ方に愕然としている。「全ての者は暴力に怯え、全ての者は死を恐れる。己が身をひき比べて殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」『法句経』(真了)
- 前はいつだったか記憶にもないぐらい久しぶりに風邪を引いてしまった。治り悪く節分の豆まきもベッドで過ごした。予定の冬の外仕事も先延ばしだが、しかし春は待ってこない。
- 東日本大震災から15年、燃料デブリの取り出しが進まない、技術開発が進んで取り出せてもその保管先はどこなのだろうかと心配になる。「トイレのないマンション」状態は続いたままで。(琴) Mar. 11. 2026